

2017年 Vol.9-2 (通巻14号)

ヤマユリ通信 植栽号

◆ 本紙の主な内容 ◆

- 里山こどもクラブ「ヤマユリを種から育てよう」講習会報告
- 2017年 麻生区ヤマユリ開花状況 紙上展
- <囲み記事> 当会が 朝日新聞で 紹介されました
- 麻生ヤマユリ植栽普及会からのお知らせ



毎年11月。植栽地では手作業で球根を植え付けます。7月にはきつと花をつけますように！ と願いながら、一球ずつ土をかぶせていきます。(おやしる公園にて)



**十一月は
ヤマユリのお正月
さあ 新年の準備を！**

休眠というと、クマやリスを思い浮かべる方も多いかもしれませんが。自然に生きる彼らは食糧確保が難しい厳寒期に、体力消耗を避けるため、巣穴に入ってじっと過ごします。

ヤマユリも同じで、生育に適さない気候、具体的には気温が10度以下になり日照時間が短くなると、休眠に入ります。暦でいえば11月から12月。これは厳しい自然環境を生き抜くための賢い戦略なのです。この期間、芽や根はじっと動かなくなります。逆に言うと、この期間を利用して球根を植えたり植え替えたりすれば、芽や根を傷めずに移植できるというわけです。

11月の植栽地では、夏草やツル草を取り除いて10センチほどの穴を掘り、底に赤玉土を敷いて球根を植え付けていきます。

春にはここから芽が出、茎が立ち、花をつけるわけですが、冬の厳しい寒さに当たらないと休眠打破できずに、発芽も開花もしません。

極寒が成長の糧！ なんとも厳しい自然界の掟です。しかし、だからこそその美しさが光るのかもしれない。

「里山こどもクラブ」講習会 ヤマユリをタネから育てよう！

夏休みは終わったのに、まだ暑さの残る9月10日（日）、里山フォーラム主催の「里山こどもクラブ」の第3回講習会が市民館で開催されました。

参加者は麻生区内の小学校、12校の2年生から6年生までの19名。さらに低学年に付き添ってきた保護者の方が12名。

大人向きの講習会は何回となくこなしてきましたが、子供たちにはちゃんと伝えられるだろうか、と内心ドキドキの当会会員。でも案ずるより産むが易しです。

種の説明役、山田事務局長は前日取ってきたという青い朝を見せながら、いつものコワモテ顔とは

打って変わったニコニコ顔で見事な説明ぶり。

代わって登壇した長井会員は、むかし取った杵柄（？）で、身振り手振りで実技指導。子供たちの関心をひきつけます。

ヤマユリの基礎知識から始まってタネの観察、種まき実習まで、休憩をはさんで約一時間半。飽きてしまうのでは？ との心配は無用でした。全員が目キラキラさせて受講してくれました。

開花するまで面倒を見てくれるよね、という長井会員の問いかけに全員が“オー”と拳を振り上げて答えてくれました。4年後、開花してくれるといいのですが・・・。



タネが芽を出すには1年かかるんだって！ビックリ



麻生区内 2017年の開花状況

今年は異常気候のせい、おしなべて開花状況が思わしくなかったようです。発芽不良、生育不良に開花遅れ、またそれにともなう朔の結実不良も重なりました。

最大の原因は暖冬のせいで、休眠打破が遅れたこと。自然には勝てない！ ということ、改めて感じさせられた一年でした。

開花の瞬間(とき)を何点かピックアップしました。



撮影中、子供たちが熱心に
写生していた

2017 開花点描①
百合丘小学校にて
(撮影／倉片立)



五郎池から炭焼き小屋方向に
向かう途中。ヤマユリは竹林
によく似合う

2017 開花点描②
早野の竹林にて
(撮影／倉片立)



2017 開花点描③
葉積緑地にて
(撮影／小穴誠)

昨年からの植栽を開始した片平
の葉積緑地。見事な大輪が周
囲を圧倒していた

タネの温度処理

朝日新聞に取り上げられたせいか、いろいろな問い合わせが寄せられる。ヤマユリを種から育ててみたいという方が多いので、最も重要な温度処理についてまとめてみました。

ヤマユリのタネには珍しい習性があります。地上に落ちたタネは1年間は芽を出しません。**※上はい軸休眠**



この自然状態の中に置いておくと、せっかくのタネも数が減ってしまいます。

これを防止するために、秋に収穫したタネをよく乾燥させ、年明けごろ密封袋に入れて消毒し、土の中に埋めます。そして冬の寒さと夏の暑さを体験させます。**※温度処理**



9月ごろ、袋の中ではタネが発根します。**※地下発芽**
この状態のタネを蒔くと、根から芽が生まれ、春を迎えて子葉が地上に顔を出すのです。**※地上発芽**



つまり、タネは自分にとって最適な環境が来るまで、じっと待っているのです。
自然の摂理とはいえ、賢いものですね。

▼写真は昨年の講習会風景



当会会員が種から育てた実生苗を麻生区民に無償で配付いたします。ヤマユリ通信「開花号」でお伝えしたように、当会の植栽活動に何回かご参加いただけた方を優先いたします。配付する苗鉢はうまく育てれば、3年後に花を咲かせますが、それまでじっくり育ててくださることが条件です。当会の活動に参加すれば、その技術も学べます。配付時期は3月下旬から4月上旬。苗の育ち具合で前後します。なお、配付時期や参加方法は下記ホームページでお知らせいたします。

当会ホームページ

http://www.geocities.jp/kurakata_4021_1470/mokuji_y

当会からのお知らせ

鉢植え講習会

ますます入手が困難になってきている、原種ヤマユリの球根を使って鉢を仕立てます。

ヤマユリはむずかしいので…と二の足を踏む方もいるようですが、当会会員が参加者のお手伝いをいたします。

募集要項は、市政だより10月1日号に掲載されています。

●開催日：11月17日（金）

●会場：麻生区役所会議室

ヤマユリ 苗鉢 無料配付



配付する苗鉢(右)

会員募集

麻生ヤマユリ植栽普及会は、麻生区内の公園や緑地でヤマユリの自生復活を目指して活動を行っています。その活動内容が、地域課題対応事業としてふさわしいとして、麻生区の指定を受けています。

活動は、4つの植栽地域に分かれて月1回の植栽維持活動を行います。作業量も「大人の土いじり」程度です。

麻生ヤマユリ植栽普及会への各種お問い合わせ、およびヤマユリ通信の記事内容についてのご照会はこちらまでお願いいたします。

●事務局 ☎090・2565・3390 事務局長 山田 栄二

☆ 編集責任 高橋 雄介

いきなり会員には…という方のために、好きなときだけ参加できる賛助会員制度もあります。お気軽にどうぞ。

●問い合わせ 事務局まで

当会の活動が 朝日新聞に紹介されました

8月6日付の朝日新聞・神奈川県版がそれで、新百合ヶ丘周辺探訪という連載企画の第一回でした。『ヤマユリの群生を再び』と題して、百合丘という地名の由来と、ヤマユリの自生地が年々減少していることを報じています。

そして住民が中心となって、地域のレガシー（遺産）としてヤマユリの保存に取り組んでいると、当会の活動が紹介されています。

内容的に問題はないし、

当会にとってはありがたいのですが、紙面の半分近くを筆者の顔が占めているのには閉口した。「みにくい容姿は人様に見せるな！」が親父の遺言でしたから。

